

***** 2014.9.24 発行 *****

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会
〒102-0082 東京都千代田区一番町 23 番地 3
日本生命一番町ビル 5 階
公益社団法人 青年海外協力協会 気付
E-mail: info@japan-malawi.org
Home Page: http://www.japan-malawi.org/

【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
人口：1636 万人 (2013 年世界銀行)、首都：リロングウェ
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
政体：共和制、大統領：ピーター・ムタリカ
為替レート：US\$ 1 = MK 394.650 (9 月 3 日現在)
MK 1 = 0.2657 円 (9 月 3 日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：197人(9月1日現在)



マラウイ共和国 国旗



ニュース 大統領選挙行われる

マラウイの大統領選挙が2014年5月20日に行われ、選挙管理委員会は30日、野党民主進歩党 (DPP) 党首の Peter Mutharika 氏が当選したと発表した。同氏は元大統領の Bing Wa Mutharika 氏の弟。

Joyce Banda 大統領による票の再集計のための期間延長、90日以内の再選挙の訴えがあったが、高等裁判所は「選挙管理委員会は選挙から8日以内に結果を発表しなければいけない」という法律の規定により退けた。票数は次の通り。

DPP: Peter Mutharika	1,904,399
MCP: Lazarus Chakwera	1,455,880
PP: Joyce Banda	1,056,230
UDF: Atupele Muluzi	717,224

ニュース 第32回通常総会と理事会開かれる

日本マラウイ協会の第32回通常総会が2014年5月10日(土) 15:00から、東京・市ヶ谷の JICA 地球ひろばセミナールームで開かれた。

第1号議案では平成25年度事業報告と決算報告および会計監査報告が次の4つの分野について行われた。

- (1) 広報活動：機関紙 KWACHA 第50号、第51号発行など。
- (2) 文化・交流活動：Joyce Banda 大統領来日歓迎レセプション開催、国情セミナー、シマを食べる会開催、在マラウイ・マラウイ日本協会との協働にむけての活動など。
- (3) 国際協力活動：マラウイウォームハートプロジェクト募集/実施。

(4) 組織活動：会員の入会勧誘活動、長期会費滞納者/住所移転先不明者の退会の処理など。

第2号議案の平成26年度事業計画と予算案では、前年度と同様に広報活動、文化・交流活動、国際協力活動、組織活動を中心に活動を展開していくことが示された。広報活動ではグローバルフェスタ JAPAN 2014 への出展、文化・交流活動ではマラウイ独立50周年記念祝賀行事の実施、チェワ語辞典統合改訂2版と新規作成する統計集をホームページに掲載すること、在マラウイ・マラウイ日本協会との協定締結を推進することなどが盛り込まれた。



▲総会の様子

第3号議案の役員臨時改選では、飯島ともこ氏の監事から理事への異動、監事には高橋敦子氏の新任が示された。

各議案は質疑応答の後、議長が一同に諮り、満場一致で承認された。

一方、7月12日(土) 13:00からは同じく JICA 地球ひろばセミナールームにて理事会が開かれ、今年度第1四半期の活動報告が行われた。

イベント 独立50周年記念祝賀行事開かれる

日本マラウイ協会は2014年7月12日(土)、東京・市ヶ谷の JICA 地球ひろばで

マラウイ独立50周年記念祝賀行事として、新帰国隊員報告会、国情セミナーおよびシマを食べる会を開催した。

新帰国隊員報告会は14:00から平成23年度2次隊の和泉澤 浩 OB (青少年活動) が本来業務と余暇活動を含めたプレゼンテーション資料を用いて報告した。



▲帰国報告する和泉澤 浩 OB

国情セミナーは15:00から、在京のマラウイ国 Reuben Ngwenya 特命全権大使が最近のマラウイ国内情勢や日本との関係について講演と質疑応答を行った(要旨は次記事参照)。

16:15からはシマを食べる会に移った。冒頭、物故隊員へ1分間の黙祷を行った。次にテーブルによるマラウイ警察音楽隊のマラウイ国歌演奏と CD による日本国歌の演奏、続いて野呂会長の独立50周年への祝辞、Ngwenya 大使の答辞、大使館職員と職員家族の紹介と進み、乾杯では会が始まった。



▲大使ご夫妻と抽選会での当選者

今年は独立50周年記念祝賀行事としての開催であることから参加者は、大使・大

や訓練のモチベーションにも影響してくると思ひ、なんとしてもこの環境を変えなくてはならないと、マラウイ協会に協力をお願いいたしました。

2. 経過

【2013年】

- 10/11 ウォームハートプロジェクト申請
- 10/28 日本マラウイ協会より支援決定通知書授与および費用の送金
- 11/11 女子寮の修理工事開始
- 12/20 梁の交換、屋根の張り替え、壁の塗り替え等、申請内工事終了

【2014年】

- 1/13 生徒が学校に戻り、女子寮の使用開始
- 3/19 天井貼り付け完了を確認。女子寮リノベーション工事完了

ように金銭的にも学校側の協力があつたということは大変喜ばしいことです。しかしその施工までにさらに約2ヵ月かかってしまったことを考えると、やはり必要な工事を十分に把握したうえで申請であるべきだったと考えます。



▲完成後の女子寮内



▲天井も貼れました!

3. 効果

女生徒たち専用の独立した居住スペースができ、トイレ、洗面、入浴、洗濯などが気兼ねなくできるようになりました。立地上教室からは少し遠くなったのですが、彼女たちは毎日嬉しそうに「Nyumba kuli bwino」(「お住まいはいかがですか?」)に対して「いいですよ」というような返事。「Ndagona bwino, ndadzuka bwino」(「よく寝ました、いい目覚めでした」と言ってくれました。夜遅くまで電気が付いていて、歌を歌ったりおしゃべりをしたりしていました。また、寮のキッチンスペースで自炊をする機会もでき、これらことから彼女たちの寮生活のストレス軽減ができたと思っています。

4. 反省点

申請は、政府が事前に修繕に必要な資材をリストアップしていたもの見積もりを取って提出したものでした。そのため天井分の資金が含まれていないという事態を招きました。このような見落としがないよう、カーペンターに相談し、実際に建物を見てもらったうえで申請を進めるべきだったと思います。結果として為替変動の利用と学校側が不足分を補ってくれたことで天井も付けることができました。維持管理の部分だけでなく、この

5. 今後の見通し・課題

これからも女生徒と職員を中心に清掃・維持管理を行いながら使用していくことと期待しています。一方で女性のみで寝泊りするため、学校ウォッチマンにはそれまで以上に厳重な警戒を行ってもらう必要があります。また、必要があれば早い段階で害虫対策を行うこと、さらには数が足りずにベッドシートで代用している窓にもカーテンを付けることでより安全で快適な居住空間にしていってほしいと思います。しかし、やはり本来見込んでいる生徒数を受け入れるにはスペースに限界があるため、工事が途中で止まってしまっている新女子寮の建設再開そして完了のめどが一刻も早く立つことを願っています。

6. 会計報告

支援額：247,604円相当の2,512.22USD (1米ドル=98.56円)
見積り時点のマラウイクワチャレート0.28円
≒884,300MK

実施時点の為替の変動により110,000MK程度の余剰が発生。
それに学校から560MKを上乗せし、天井用の板の購入および工費にあてた。

レポート

マラウイでの3年を振り返って

元JICAマラウイ事務所
ボランティア調整員 中橋 一郎

ボランティア調整員としての業務を終え、8月末に無事帰国しました。ボランティア事業を応援してくださっている皆様に支えられ、また情熱あふれるボランティアの皆さんの姿に元気をもらえたからこそ、何とか全うできた3年間だったと感謝しております。

思い起こせば着任した2011年8月、マラウイの社会経済情勢は大変厳しい状況にありました。ドナーとの関係悪化やタバコの不作に起因する外貨不足が、固定相場制の外為制度により一層加速され、市中からは輸入品が一斉に消えました。ファンタやビールのような嗜好品はともかく、ガソリンがなければ仕事にもなりません。医薬品の不足も深刻で、病院では多くの患者さんが手ぶらで家に帰らざるをえませんでした。

翌年5月には変動為替に移行し、経済は再び成長を始めています。医薬品の供給状況も随分改善されました。もちろんお金が全てではありませんが、やはりなくてはならぬ物であると実感しました。



▲2012年の燃料危機、ムジンバでガソリンの到着を待つ車列

品目	用量	価格 (MK)	小計 (MK)	合計 (MK)
木材 6 インチ×2 インチ	30 枚	105,000		
木材 2 インチ×3 インチ	30 枚	75,000		
木材 2 インチ×2 インチ	40 枚	96,000	276,000	
工費		450,000	450,000	
鉄釘	5kg	5,000		
丸くぎ 4 インチ	10kg	7,500		
丸くぎ 5 インチ	6kg	4,500		
5L 仕上塗料 クリーム色	6 缶	63,000		
5L PVA	4 缶	34,000		
5L 仕上塗料 灰色	2 缶	21,000		
5L 仕上塗料 黒色	2 缶	21,000		
6 インチペンキブラシ	1 本	1,100		
4 インチペンキブラシ	1 本	750		
2 インチペンキブラシ	1 本	450	158,300	884,300

投稿 科学をみんなの羽根に

平成22年度2次隊
理数科教師 内田 充洋

私は2010年から2012年まで、リロングウェ県郊外のチンゴンベ中高等学校に理数科教師として赴任していました。小学校にも中高等学校にも器具は満足になく、実験に触れる機会があまりないままに理科教育が行われているのが現状です。

そこで、多くの子供達に科学に触れる機会を与え「その面白さを伝えたい、科学に関する職業を目指すきっかけになって欲しい」との思いから、有志が集まり立ち上げたサイエンスキャラバンが「PICO factory」でした。英語が分からない子供たちに対し、ものが無い中、如何に科学を楽しんでもらうか。その答えがこのPICO factoryの大きな柱となりました。それは、①従来のサイエンスショーに劇の要素を取り入れ楽しみながら科学に触れてもらうこと、②パントマイム(無声劇)とし言葉の壁を乗り越えること、③田舎の村でも手に入るものを使って実験を行うことの3つでした。

2011年に始まったPICO factory。劇中の実験が上手くいかなかったことや、屋外の会場で天候に泣かされたこともありましたが、会場の手配や準備などマラウイ各地の隊員やマラウイ人の協力もあり、初年度は12会場で2,500人もの人々に科学の面白さを伝えることができました。翌2012年にはJICAマラウイの支援も得て、16会場で3,500人を動員。その場限りのショーで終わることの無いよう、会場に足を運んだ現地教員向けの実験リーフレットも作成し、学校の授業でも再現できる工夫を施しました。PICO factoryの活動の中で特に印象的だったことは、劇中の役者や実験を食い入るように見つめていた子供たちの眼差し。公演終了後の彼らの笑顔を見る度に、やってよかったという思いで一杯になりました。2012年に私が帰国した後もマラウ

イに残った後輩隊員達が受け継ぎ、2013年には17会場で4,500人を動員。マラウイ国営放送でも子供向けプログラムとして放映されました。そして、2014年も引き続き巡業が行われています。(今年の公演の様子はこちらから→<http://picofactorymalawi.blogspot.jp>)

日本の子供達にもマラウイ同様に科学とエンターテイメントが融合したショーを楽しんでもらえるのではと、帰国したPICO factoryの中心メンバーで今年の2月に立ち上げたのが「PICO factory Japan」です。各メンバーのこれまでの人脈やJICAの協力を得て、京都に山梨、埼玉、茨城、北海道と様々な土地で公演や展示を行ってきました。まだまだ立ち上げたばかりの団体ですが、マラウイPICO factoryのコンセプトを引き継ぎ、日本から「誰もが楽しめる科学の面白さ」を伝えていきたいと思っています。

PICO factory Japan ホームページ：
<http://www.picofactory.jp/>



▲日本での公演の様子(山梨県北杜市立高根北小)

あった木下孝司氏は、JICAシニアとして農業機械の製作指導等のためにブラントアに赴任(2006～2008年)していた時に、幼い子ども達が不衛生な水を飲んで病気になる姿を見て、マラウイの技術者が自分達の手で製作できるような太陽光ボイラーをマラウイに設置することを発案し、その計画を実行に移そうとした矢先に、病気のために昨年9月に逝去されました。私達は彼の遺志を継ぎ、マラウイに太陽光ボイラーを設置するための活動を開始しました。

活動資金の募金のために設置した「木下マラウイ基金」から明石高専OBらに対して呼びかけて集められた約300万円の寄付金により、マラウイの技術者招へい費用、ボイラーの資材調達費用、出張者旅費、等の大半を賄う事が出来ました。

また、マラウイ工業研究技術開発センター(MIRTDC)のJohn Taulo氏に協力を求めたところ、快諾を得ました。Taulo氏は、木下氏が指導した技術者で、太陽光ボイラー設置の現地協力者として予定していた人です。本年2月には、Taulo氏を日本に招き、マラウイでの太陽光ボイラーの資材調達や製作方法等を打合せ、作業工程を決定しました。滞在中の10日間、Taulo氏の行動と発言は、私達に誠実さと熱意を伝えてくれ、応援した多くの方々が賞賛してくれました。

日本から2名の担当者(大源、清水)がマラウイに向かい、6月16日にリングウェの日本大使館とJICA事務所訪問をし、17



▲ワークショップ後、実験発表の様子

投稿 飲料水煮沸用「KINOSHITA SUN BOILER」のマラウイ設置記

NPO法人技術者集団ACT135
清水 清

本年6月に、太陽光を集光して飲料水を沸騰させる太陽光ボイラーがマラウイに設置されました。このボイラーの設置に至るまでの活動を紹介させて戴きます。

私達の所属するNPO法人のメンバーで



▲マラウイでのPICO factoryの様子



▲完成した太陽光ボイラー

日～27日の間はボランティアでボイラーの設置作業を支援しました。通訳を引き受けて下さった阪口文代様(かつて、青年海外協力隊で、マラウイ在住)には、ボランティアでの全期間お世話になり、私達の活動が円滑に遂行することができました。MIRTDCのワークショップ(工場)が製作した太陽光ボイラーを確認したところ、不十分な加工機械設備にもかかわらず驚くほ

どの良好な加工が施されていました。次に、ボイラー設置場所で基礎工事や据付等の作業を指導し、太陽光ボイラーが搬入・設置されました。私達は、「資材調達用のお金と製作図面は日本から送ったが、完成したボイラーは間違いなくMade in Malawiであり、それが一番大事です」と現地の関係者に伝えました。設置場所は、空港から北に3kmのNkata Villageというコミュニ

ティです。ボイラーは、100リットルの水を約3時間で沸騰させる性能があり、さらに増やしていきたいとのこと。私達も引き続き応援していきたいと思っていますが、海外交流活動が初めてである私達に、皆様の御経験からの貴重なアドバイスを戴ければ幸いです。

最後に、本稿の執筆の機会を与えてくださり、お礼を申し上げます。



▲Nkata Villageの子供達

日本マラウイ協会 2014年3月～2014年8月 主な活動内容

(1) 2014.3.26	3月定例会、 機関誌KWACHA第51号発行
(2) 2014.4.30	4月定例会
(3) 2014.5.10	第32回通常総会
(4) 2014.5.21	5月定例会
(5) 2014.6.18	6月定例会
(6) 2014.7.12	独立50周年記念祝賀行事 (帰国隊員報告会、国情セミナー、 シマを食べる会)
(7) 2014.7.23	7月定例会

☺ 日本マラウイ協会情報 ☺

■ ホームページ、E-mailアドレス変更

当会のホームページをリニューアルし、2014年7月6日から公開しています。これにあわせE-mailアドレスも変更になりました。

新ホームページ <http://www.japan-malawi.org/>
新E-mailアドレス info@japan-malawi.org

■ インターネットでラジオ番組

インターネットでマラウイのラジオ番組を聞くことができます。ZODIAC ONLINEというサイト <http://www.zodiakmalawi.com/>で画面右上の「ON LINE RADIO」と書かれたボタンをクリックするとチェワ語のトークやマラウイの音楽が流れてきます。このラジオ局はリロングウェで95.1MHzで放送しているZodiak Broadcasting StationというFM局。マイクロソフトのSilverlightというソフトのインストールが必要ですが、入ってなければダウンロードを促す画面が出てきます。また、画面の左側ではマラウイのニュースも読めます。

■ KWACHAバックナンバー

当会は2014年2月26日に設立31周年を迎えましたが、設立時の機関紙 KWACHA第1号から第52号(今号)までの全バックナンバーをPDFファイル化し、当会ホームページへ掲載しています。是非ご覧下さい。

■ 日本マラウイ協会の刊行物

(1) 国情紹介誌

「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版
(1994年7月発行) A4版40ページ 1部 1,000円(送料82円)

(2) マラウイ旅行ガイド新訂第2版

(1997年7月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」
B5版108ページ 1部 1,200円(送料82円)

※チェワ語辞典統合改訂2版(2012年9月発行)は売切れしました。

上記2種類を1冊ずつご注文の場合の送料は82円となります。送料は「クロナコヤマトのメール便」扱いで表示しています。

購入ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載のいずれかの銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。

●送金の前に、必ず注文内容(希望する「刊行物名」、「部数」、「発送先」、「申込者の氏名、電話番号」と、どちらの銀行口座に送金するかをメールでご連絡ください。

■ ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、1面上部の当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

■ 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、原則毎月第3水曜日18:30～に、東京都内(原則：新宿区市谷のJICA地球ひろばセミナールーム)で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。正確な開催日等は事前に当協会までお問い合わせください。

■ 日本マラウイ協会 入会方法等

当会ホームページのトップページの「入会案内」のアイコンをクリックするとメールフォーマットが出てきますので、所要事項を入力して送信してください。また、入会金と年会費の合計(個人正会員の場合1,000円 + 3,000円 = 4,000円)を下記のいずれかの銀行口座へお送りください。継続会員の方の年会費(個人正会員の場合3,000円)は、E-mailでご連絡の上、お送りください。いずれもどちらの口座に送金するかE-mailでお知らせください。

(1) 三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店

普通口座255739

口座名義：日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

(2) ゆうちょ銀行 〇一九店(ゼロイチキウウ店)

当座預金口座0013125

口座名義：日本マラウイ協会

(ゆうちょ銀行から送金する場合は、口座番号：00190-7-13125)